

ノーリフティングケア 3年目の取り組み

—千里の道も一歩から—

社会福祉法人 光輪会
特別養護老人ホーム 常照苑 くすのき通り

2年目までの変化

〈1年目〉

ノーリフティングケアについての周知・浸透し始めた

- ・福祉用具の活用 → 身体的負担の軽減
- ・就業前の体操の定着 → 腰痛の軽減

〈2年目〉

ノーリフティングケアの意識付けができた

- ・PDCAサイクルについてのマンツーマンでの伝達講習
→ 一人一人に周知、理解、課題解決へ結び付けられるように
- ・定期的なラウンドチェック
→ 早期にリスクの芽に気付けるように

福祉用具配置の変化

2年目に拡大
居室数 30 シート・グローブは電動ベッド数を超える。

	1年目	2年目	3年目
電動ベッド	30台	30台	30台
車椅子	16台	23台	23台
スライディングシート	16枚	35枚	35枚
スライディンググローブ	0組	2組	35組
スライディングボード	4枚	5枚	6枚
スタンディングリフト	0台	1台	1台
リフト	0台	1台	1台

3年目の挑戦 【排泄ケア検討委員会と共に...】

《事例》 ～S様～

- ・97歳 女性 ・認知自立度 IIIa
- ・既往歴 右膝骨折、左手関節骨折、
右膝蓋骨骨折、右大腿骨頸部骨折

入院中、起立に対する不安感が強く、
トイレ支援ではなくベッド上での
オムツ交換を行っていた
また、臀部の発赤を繰り返していた



他職種 + 排泄ケア検討委員会 + 労働衛生委員会のノーリフティング部門
会議の結果

福祉用具「楽助さん」を活用する

軽介助での起立が可能になり
トイレでの排泄が出来るようになった

失禁が減り、臀部の発赤が消失した



3年目の課題 【“短期入所事業所、への普及”】

《課題》

- ・福祉用具を活用できていない
- ・一人一人の技術不足

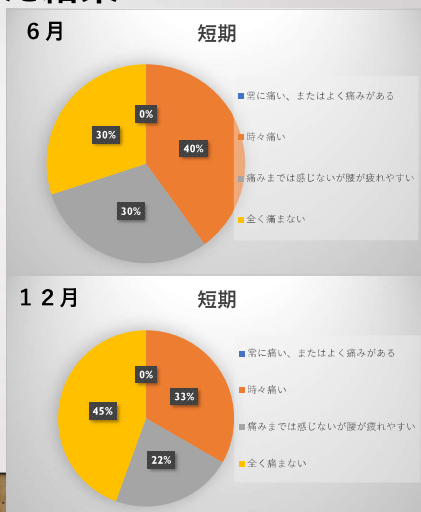
短期入所事業所内の協力メンバーの増員

ノーリフティングケアの目的、理解の再伝達
アドバイザーの協力のもと技術指導



協力メンバーの増員をおこなった結果

- ・短期入所事業所内での問題点
改善策検討の情報共有が
スムーズにできるようになった
- ・技術伝達、指導がメンバーを
通してできるようになった



令和4年度の取り組み

- ・法人内勉強会（月3回に分け実施）
- ・新人職員2名、技能実習生3名への
目的、理解、技術の指導
- ・実習生への説明、実技の体験
久留米医大医学部医学科1年生
九州大谷短期大学2年生
地域の中学生の職場体験
大牟田高校



- ・福祉用具のさらなる充実と活用促進
スライディンググローブの購入、技術指導



- ・施設外 普及活動にも着手
みやま市の福祉祭りでの
ノーリフティングケアの紹介



職員の意識調査 職員33名を対象

《身体的な変化》

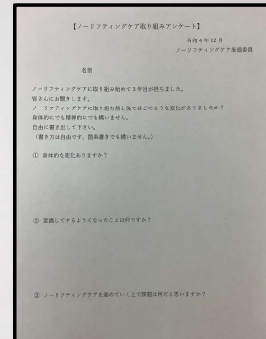
- ・腰が楽になった 7名
- ・身体が軽くなった 6名

《意識するようになったこと》

- ・福祉用具を活用する 12名
- ・中腰姿勢をとらない 10名
- ・体重移動やベッドの高さの調整 14名

《継続していく上での課題》

- ・自己流にならないように技術の見直し 7名
- ・意識が薄れないように定期的な勉強会 7名



令和5年度に向けて

課題 : 継続していくとの難しさを実感

- ・ノーリフティングケアに対する意識統一
- ・職員教育（目的・必要性の理解、技術の習得）
- ・法人内での普及（勉強会、技術伝達指導）

目的 : すべての人（入居者様、職員）に
優しい環境づくりを目指します

令和5年度の目標

- ・法人内全体でのノーリフティングケアへの意識の向上
- ・常照苑くすのき通り、常照苑短期入所で、「抱え上げ介助ゼロ」・「腰痛者ゼロ」